皆さんに聴きました

私たちが聴きました

宮内（みやうち） 正晴（まさはる） 議員

春山（はるやま） 和久（かずひさ） 議員

議会広報常任委員会が、町の課題について、関係する住民の皆さんにインタビューして意見や思いを聴きました。今回は「吉岡町で文化活動を続けていく課題や、今後のあり方」をテーマに、コロナ禍の会員減少を乗り越え、日々活躍される文化協会の皆さんにお話をお聴きしました。

同じ趣味の仲間と過ごす時間は毎回楽しみです。面倒見が良い方ばかりなので、現役・子育て世代の皆さんもぜひ気軽にお出掛けください。
（文化協会関係者）

会員減やコロナ禍に翻弄（ほんろう）され、徐々に戻る雰囲気もありますが戻り切らないのが現実、高齢化が進む中で今後の存続に大きな不安を感じています。（芸能団体関係者）

コロナ禍で教室が開けず退会者が続き会員が減少しました。会の存続に関わるため、新たな会員募集の方法を模索しています。
（パッチワーク愛好会）

伝統芸能として長年継続され、子供会の協力があり夏祭りで披露しています。中学生になり部活で集まれません。関心がある30～40代の人にぜひご加入いただきたいです。（屋台囃子保存会）

東京の先生を招き町内で活動しています。稽古を通していろいろと深く文化を楽しむことができます。仲間が増えて、より楽しく学べることができればうれしく思います。　（能楽愛好会）

八木節で町を元気にしようと活動しています。子どもたちの参加も戻り活気が出てきたので、町内に数多くある八木節で町を一つに盛り上げたいです。　（八木節保存会）

コロナ禍で活動できませんでしたが、フォークソング演奏会を楽しむ人も増え、観客と合唱しています。若い人の参加を期待し活動しています。　（音楽愛好会）

担い手不足は深刻ですが、常に会員確保を念頭に置き、助け合いの精神で郷土芸能の歴史を次世代へ繋いでいきたいです。
（郷土芸能関係）

高齢化による会員減や新人の加入難に加え、施設利用の６人制限も大きなネックです。もう少し柔軟に対応してほしいです。
（文化協会関係者）

今年から参加してくれた小学生を、コロナ前に育った学生が面倒を見てくれています。地域文化の継承を心配しています。
（郷土芸能関係者）